

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 141-8640

住 所 東京都東五反田2-18-1

氏 名 メビウスパッケージング株式会社

代表取締役社長 坂崎 博明

代理人 川崎工場長 中村 年秀

印

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	メビウスパッケージング株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市川崎区浮島町11-1		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	18	プラスチック製品製造業 (別掲を除く)
主たる事業 の内容	プラスチック容器製造販売		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	10,354	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO <sub>2</sub>
連絡先	担当部署	担当部署名	
		所在地	
	電話番号		
	FAX番号		
	メールアドレス		

※受付欄		※特記事項	※事業者番号	

(第2面)

計画期間及び報告年度	2019 年度 ~ 2021 年度 (報告年度 2021 年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備 考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。  
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。  
3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。  
4 ※印の欄は記入しないでください。  
5 氏名(法人にあっては、その代表者)を記載し、押印することに代えて、本人(法人にあっては、その代表者)が署名することができます。

### 事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況（第1、2、4号該当者等）

(1) 計画期間における温室効果ガスの排出の量等の状況

ア 温室効果ガスの排出の量

	基準年度 ( 2018 年度)	第1年度 ( 2019 年度)	第2年度 ( 2020 年度)	第3年度 ( 2021 年度)	目標排出量
排出量 ( t-CO2)	(実) 21,089 (調) 20,540	(実) 20,704 (調) 20,156	(実) 19,966 (調) 19,336	(実) 18,677 (調) 18,512	(実) 19,263 (調) 19,263
削減率		(実) 1.8 % (調) 1.9 %	(実) 5.3 % (調) 5.9 %	(実) 11.4 % (調) 9.9 %	(実) 8.7 % (調) 6.2 %

イ 温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値（任意記載）

原単位等の活動量	原単位等の単位				
	基準年度 ( 2018 年度)	第1年度 ( 2019 年度)	第2年度 ( 2020 年度)	第3年度 ( 2021 年度)	目標とした値
排出量原単位等の値					
活動量の値					-
排出量原単位等の削減率		%	%	%	%

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況等についての説明

第1年度	使用電気の排出係数の良化 第一工場・事務棟の(2020年全廃となる7022を使用した)空調機の更新による省エネ実現 これらにより、1.9%の削減が達成出来た。	
第2年度	第一工場工業用水ポンプ(18.5kw×3台)を30kwIVポンプ1台へ集約更新により、大幅な省エネが実現。 基準年に対して5.3%削減出来ました。	
第3年度	第二工場屋上吸収式冷凍機(ガス)の故障により、ターボ冷凍機稼働した為、CO2排出は削減となった。故障した吸収式冷凍機は老朽化によりエネルギー効率も悪い為、空冷式冷凍機へ更新を行った。(運用は2022年度から) 場内で使用されるエアの漏れ点検及び是正などの省エネ活動効果が挙げられた。 また事務棟更衣室及び第二工場厚生室空調機更新による効果も削減に寄与したものと考えられます。	
計画期間における排出量増減等の評価 (第3年度の報告時に記載)		当初計画した温室効果ガス削減に掲げた目標に対しての計画は概ね達成出来た。
上記評価を踏まえた改善対策など (第3年度の報告時に記載)		今後も日々の省エネ活動は基より、現状に満足せず常に効率化を図る生産活動に努めます。

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況（全社目標）（任意記載）

<p>エコアクションレポート2021年12月作成より 当社は事業活動に伴うCO2排出量をScope1・2、Scope3に分け、それぞれを生産(または販売)した製品の重量で割った「CO2排出原単位」を管理指標とし、これを削減することを目標として設定しております。Scope1・2については98%が電力調達によるものであり、生産工程の省エネ化がその削減のポイントとなります。2020年度においても成形機の更新や押出機のモーター更新等を行ったことが寄与したことに加え、電力自体のCO2排出係数も低下したことにより、当社排出原単位を前年の1.24t-CO2/tから1.18t-CO2/tに低下させることができました。 Scope3については49%が購入した材料や製品に起因し、44%が使い終わった製品の廃棄処分に伴うものとなります。従って、その削減にあたっては、製造時や廃棄処分時のCO2排出が少ない材料に切り替えていくことが重要になります。当社では、再生材料や植物由来材料の採用を増やすための活動を開始しており、この活動にご賛同頂いたお客様と各種評価を進めております。2021年度以降、徐々にその成果が出てくる見込みです。また、目標達成に向けては、材料メーカー各社様のご協力も不可欠です。今後、具体的な取り組みを行っていきたいと考えております。</p>
---

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況

(1) 措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない装置を実施した場合は、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

<p>計 画</p>	<p>○生産活動の効率化 生産開始と停止の手順を明確化し、訓練することで、不良品率低減させ、これに掛かるエネルギーを削減する。</p> <p>○毎月省エネ巡回の実施 生産現場で無駄を見つけ改善を進める ・エアーの拭きっぱなしや洩れ ・コンベヤやブロワーの空運転 ・照明のつけっぱなし</p> <p>○空調機更新 第一工場・事務棟の空調は冷媒は2020年全廃となるフロン22を使用しています。これを更新する</p>
<p>第1年度</p>	<p>○生産活動の効率化 生産活動における総アウト率は2018年度(基準年度)7.7%に対して、2019年度は8.4%に止まり効率化は進まず温室効果ガスの排出量削減に貢献できませんでした。</p> <p>○毎月省エネ巡回の実施 第1工場工業用水ポンプと第1機械室冷水ポンプの更新他40件の省エネ改善で電気使用量464千kwh/年の削減できました。</p> <p>○空調機更新 第一工場・事務棟の(2020年全廃となるフロン22を使用した)空調機の更新実施</p>
<p>第2年度</p>	<p>○生産活動の効率化 生産活動における総アウト率は2018年度(基準年度)7.7%に対して、2020年度は6.8%となり温室効果ガスの排出量削減に貢献出来ました。</p> <p>○毎月省エネ巡回の実施 第1工場工業用水ポンプの更新とエア漏れ点検による是正他28件の省エネ改善で電気使用量392千kwh/年の削減できました。</p>
<p>第3年度</p>	<p>○生産活動の効率化 生産活動における総アウト率は2018年度(基準年度)7.7%に対して、2021年度は7.1%となり温室効果ガスの排出量削減に貢献出来ました。</p> <p>○毎月省エネ巡回の実施 高効率の空調機及び押出機モーターの更新並びにエア漏れ点検による是正他省エネ改善で電気使用量392千kwh/年の削減できました。</p> <p>○空調機及び生産設備更新 事務棟更衣室及び第二工場厚生室の空調機更新</p>

<p>計画期間における取組の評価 (第3年度の報告時に記載)</p>	<p>生産活動の効率化について第1年度のみ基準年に対して達成出来ませんでしたが、その後は温室効果ガス排出量削減に貢献しました。また省エネ活動に於ける巡回などの効果も着実に表れております。予定していた空調機の更新も概ね実施出来ました。</p>
--	--

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 前年度における再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

(追加検討を実施した場合は「○」、追加の検討を実施していない場合は「×」を記載してください。また、追加検討を実施した場合はその結果を記載してください。)

再生可能エネルギー源等の種類	追加検討の有無	検討結果
太陽光	×	
風力	×	
バイオマス	×	
未利用エネルギー	×	
その他 ( )		
その他 ( )		

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー源等の価値の保有状況・計画

種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度

(3) 前年度に実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入状況

(追加導入がある場合は「○」、追加導入がない場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	追加導入の有無	設備等の種類	追加導入の有無
電気自動車等への充電設備	×	エネルギー管理システム (FEMS、BEMS等)	×
電気自動車等から建物等への給電設備	×	その他 ( )	
EV、PHV、FCV	×	その他 ( )	

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	○製品輸送の直行化(デポを使用せず、自工場から直接得意先へ)
第1年度	○製品輸送の直行化(デポを使用せず、自工場から直接得意先へ)
第2年度	○製品輸送の直行化(デポを使用せず、自工場から直接得意先へ)
第3年度	○製品輸送の直行化(デポを使用せず、自工場から直接得意先へ)

5 その他、地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	○グリーン購入推進 ○廃棄物の分別と減量化を図る ○コピー用紙の購入抑制(裏印刷再利用推進)
第1年度	○グリーン購入推進 ○廃棄物の分別と減量化を図った。 ○コピー用紙の購入抑制(裏印刷再利用推進)
第2年度	○グリーン購入推進 ○廃棄物の分別と減量化を図った。 ○コピー用紙の購入抑制(裏印刷再利用推進)
第3年度	○グリーン購入推進 ○廃棄物の分別と減量化を図った。 ○コピー用紙の購入抑制(裏印刷再利用推進)

6 基準年度からのエネルギー起源CO<sub>2</sub>の排出の量等の推移（1、2号該当者等）

(1) 事業者単位

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量	21,089 t-CO <sub>2</sub>	20,704 t-CO <sub>2</sub>	19,966 t-CO <sub>2</sub>	18,677 t-CO <sub>2</sub>
原油換算エネルギー使用量	11,008 KL	10,962 KL	10,814 KL	10,354 KL
事業所の数	1	1	1	1

(2) 事業所等単位

ア 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO <sub>2</sub> の排出量 (t-CO <sub>2</sub> )			
		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
メビウスパッケージング株式会社	神奈川県川崎市川崎区浮島町1-1	21,089	20,704	19,966	18,677

イ 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO <sub>2</sub> の排出量 (t-CO <sub>2</sub> )			
		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度